

おい図書館

No. 19

白井町立

図書館を 訪ねて

白井町立図書館は、千葉ニュータウンの一角に位置し、人口約四万五千人が利用する文化ホール、郷土資料館を併設した複合型図書館で、昨年十月にオープンしました。敷地面積三万六千平方メートル、図書館面積は約三千八百平方メートルで、豊かな自然に囲まれています。

図書館は、出入口とカウンターが大きく左右に分かれ、一方は児童書、もう一方は一般書とな

っています。共に開口部が多く、周囲の緑が目に入ってきて心安らぐ印象です。窓の下に雑誌棚があり、その列に沿って一人掛けのソファが並んでいます。マゼンダルトコーナーには専用の机と椅子が配置され、A/Vの充実にも力を入れ、ビデオ・CDが数多く備わっています。書棚に隙間が多いのは、現在貸出中之利用の高さがかがわれます。

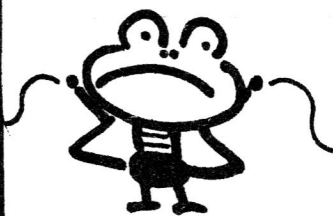
児童書の一角にはお話の部屋があり、毎週一回職員が「おはなし会」をし



ているそうです。又、学校への働きかけの質問には、働きかけは現行していないが、学校から要望があれば対応するとの答えから、市民側もただ待っているのではなく、利用者側も図書館の働きを積極的に求めていくべきと感じました。

貸出冊数は開館半年で一人八、冊と浦安の年間十冊を確実に抜くとのこと。職員数は十二名（内司書九名）と週三日勤務のアルバイトと運営されています。当初の予想以上の利用者の対応に職員は追われ、きめ細かいサービスまでほそくないそうです。行政側は図書館の増員は検討せず、職員のままに孤軍奮闘に支えられている姿が印象に残りました。

設備が整い、多くの利用者がいるから図書館なのではなく、機能を実に果たし、様々なサービスが可能になってこそみんなの図書館であり、職員に



ゆとりがあれば能力を充分に發揮し、市民に親しまれていくのではないでしょう。職員の方の健闘に、行政の厚い手助けが必要と思いました。

(菊地志枝)

印西町立

図書館

けんがくき

印西は白井町のお隣りという印象の割に遠く感じていました。着いた図書館は成田稔木下駅から歩いて十五分の所にありました。文化ホールとの複合の造りで、新しい建物は刺激的です。平成六年十月に開館した図

書館は明かるくすっきりとして、面積は松戸図書館の約三分の一、地区館としての機能を果していました。地区館といても蔵書八万冊近く、レファレンスコーナーも整っていますし、雑誌類も二百三十冊揃って、ゆったりしたいイヌも用意されて、ＣＤやビデオ等視聴覚コーナーも使い易そうです。それに、どこの図書館を見学してもうれしくなることは、子どもコーナーにある子ども用の「トイレ」です。みんなでのぞいてはうれしい悲鳴をあげてくれます。



印西町は北に成田稔、南に北稔、その間はゴルフ場という地形に浴び、住民構成されています。急増した人口に対応するには地区館を早急に造らなければならず、今年六月には小林分館が出きるそうです。この図書館が出きる前、平成六年四月の貸出は、二つり分館、移動図書館車で約一万冊、七年三月には約五万冊を越えているのです。八万人の印西町人は、新しい図書館が出きると、さらに利用する機会を増やしていくことでしょう。

よい図書館を見学するたびに
そういう市民の姿がしびみと
感じられます。(磯村光良)

発行 「おひい図書館」

連絡先 青木 和子

松戸市 総合八三〇ノ六
〇四七三(六七)五三八四